

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふじトピア
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	静岡県 藤枝市 時ヶ谷 417-2
記入者名 (管理者)	芹澤 真里子
記入日	平成 20 年 1 月 11 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の実現とは、時代・取り巻く環境・利用者様の状況が変わっても、深くどこまでも追求していけるものだと考えているので、今後も共通認識として、ベクトルを合わせ取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人としての母体、各事業所の組織力を活用し、全体としての地域貢献への取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての外部評価の機会であるため、評価項目を網羅していくことがケアの質を高め、利用者様にとって、より良いケアの実現になるということを念頭に、課題が抽出されることを真摯に受け止めている。評価項目は職員研修時の資料としても使用している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の回数を重ねながら、都度ホームの状況を説明していくことで、地に足の着いたアドバイスなど貴重な御意見をいただいている。外部評価の主旨説明も行き、次回の議題に今回の結果分析を予定している。	○	まだ1年目であるので、今後さらに活発な意見交換を通して、地域として見守る相互理解のある会議にしていきたい。防災に関わる専門分野など、多方面の方々の意見交換も模索していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会への参加及び、市町村担当者から送付される職員研修や、感染情報、時事情報など各情報をいただきながら、報告事項や、質問・相談事項について連絡を行っている。	○	今後も、行政関係者との連絡と報告を行いながら、より良いサービスが提供できるように、向上に取り組みたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人として専門担当者から学ぶ機会はあるため、必要な場面での活用に繋げていく。	○	個々の利用者様にとって、利益になるような制度に関しては、より専門性を高め活用につなげていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待や拘束がどのような内容であるか、資料や会議時での伝達、研修等で認識強化に努めている。身体的ばかりでなく、精神的な言葉の虐待も、接遇体験の実地を通し理解を促している。また、鍵をかけない工夫について、全職員で取り組んでいる。	○	身体拘束ゼロも含め、今後も職員の認識をさらに深め、専門職としての的確なケアが統一できるよう一層の向上を図りたい。外部研修への申込を行い、参加者からの伝達を全職員で取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分な時間を取り、不明な点や、苦情等の窓口が内容に応じていくつもある点なども説明し、契約の締結をするよう努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の心身の状態観察の中で、利用者様のサインを見逃さず、意思表示のできる方からは直接意見をいただく機会をつくり、傾聴する。表しにくい方からは、ご家族への連絡、相談などから訴えていることを推察し、運営に結び付けている。</p>	<p>○</p> <p>今後も、利用者様本位のサービス内容で運営されていくよう、当事者のサインを敏感に察知し、声に耳を傾けていきたい。代弁すべき役割を誰かが担える努力をしていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>生活や健康の状態については、面会も多く、受診時の数値などでも確認されている。小口の金銭管理は月1回領収書と出納長を送付している。広報誌は季刊誌で発行している。</p>	<p>○</p> <p>より細やかなお便りの発行により、利用者様の表情や暮らしぶりについてさらに安心していただけるような取り組みをしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪者訪問毎に記入いただく「面会記録簿」にご要望・苦情等の記入欄を設け、苦情窓口は何箇所か方法がある点を説明している。また担当者、管理者などから直接の御意見をお聞きし、全体で改善できる方向へ反映している。</p>	<p>○</p> <p>利用者様をホームとご家族で支援していることを念頭に置き、今後もお気づきの御意見をいただきながら、円滑により良い運営に反映していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝のカンファ時、伝言ノート、職員会議、個別面談などの機会にて様々な意見が上がり、他職員の意見を確認しながら、反映させている。</p>	<p>○</p> <p>ホームをもっと良くしよう、利用者様にとってこうしたほうがもったいいのではないかと、という思いから来る改善提案事項については、引き続き柔軟な対応を行い、利用者様、職員とも、ホームでの生活が、より豊かな内容になるよう努めていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出や、イベントの企画日に応じ、しかるべき体制を整えるなど、出来る限る対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設時よりのスタッフは、体調等お互いをフォローし合いながらも、全員在籍しており、新たなスタッフも馴染みの間柄になっている。</p>	<p>○</p> <p>今後も最善の方法で、利用者様にとって不利益にならないような対応を努力すると共に、まず、支援する側が健全な状態でいられるように、出来る限りの努力と工夫は行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、施設外の研修については機会あるごとに参加を促している。また発生ベースでのOJTで、課題解決を努力している。資格取得研修参加は出勤扱いに考慮している。	○ 認知症の方への専門職としての対応の出来る職員であるよう、自己啓発と体系だった育成への努力を惜しまない。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所時の移管利用者についての情報交換。同じ市内の同業者へは、開設の折、後発としての挨拶一巡と、今後のネットワーク活動への認識の確認をした。その他、相談や趣味を通じての訪問を行っている。	○ 引き続き、ネットワーク
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの感じ方は個人の資質、体力にもよるため、一概には成果が見えにくい。喫煙・嗜好品は本人の良識にゆだねている。職員研修時にストレス軽減の資料配布に取り組む。	○ 職員の健全な心身の状況があつてこそ、利用者様へもゆとりあるケアが出来ることを思い、今後も環境整備等マンパワーの維持に努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職務に対するそれぞれのスタンスもあるため、勤務予定等で個別に要望のある場合は、出来る限り要望に沿う努力をしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、ご家族と調整後必ず自宅訪問し、人間関係を築くアプローチをしながら生活されている様子、雰囲気、間取りなど確認し、不安なく入所の段取りが進み、入所後のケアに生かせるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学希望、問い合わせ時に、電話での簡単な状況相談と、実際に見学をしていただき、ホームの雰囲気や設備、その後の関わり方などについて不安に思われることがない様、説明している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしての主旨説明をし、ご理解をいただきながら、他施設、他事業所の利用目的と違いについて、介護保険全般的な説明へも対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入所を導入している。要望により、最初に短期の入所にて、本人の暮らしのペースや他利用者と馴染めるかなどの不安を取り除けるようにお試しをし、本人の納得が得られた上で、本契約後、入所の運びになるようにしている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活のすべての活動に対し、その方の生活歴から、先達として様々に教えていただけることがある事実を実感している。職員と利用者様、あるいは利用者様同士で、お互いが支援し、支援される側になり、人としての生きている喜怒哀楽を分かち合える関係に努めている。	○	支援を必要とする方であっても、その方の持っている別の力が、逆に支援する側になれること、その可能性、その事実があることを、今後もしっかりと生かし、プラスの作用に展開できるよう、関係するすべての方々と相互援助をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時は、ホーム全体が大きな家族のような雰囲気をかもし出しており、ご家族自身の安心感や和みの場になっている様子が見受けられる。ご家族でなければ発揮できない力をお借りし、役割を担っていただくことで、利用者様を総合的に支援している。	○	同 上
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援が必要となる以前の生活ぶりや、趣味、家族関係などプライバシーに考慮しながら、聞き取りや相談を重ね、最終章に向かうまで、より良き関係がきずいていける支援へ努めている。	○	同 上
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気の合う知人の食事会へ、毎月出向かれる方もいて送迎をしている。自宅近隣の方が、回覧物を届けてくれ、農園野菜のおすそ分けをしたりする。絵手紙の作成をして他県も含む身内などへ送っている。	○	同 上
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係性については、日々の申し送りで動きを把握している。相互に発揮できる力があり、支えあい、助け合いの場面も多く見られる。また、かみあわない場面では、職員が通訳や俳優を担当し、柔軟な対応で支援している。	○	同 上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ、契約終了者はいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状態観察、日々の申し送りなどを通し、どんな希望、要望を持っているのかを探るよう努めている。本人からのサインやシグナルを察知し、推察し、検証し、情報の共有化をはかっている。	○	より細やかな情報収集を行い、状況変化にも対応した本人の意向を確認していく。継続してセンター方式の活用をし、より細やかなケアに生かす支援をしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族の協力を得ながら、必要事項の聞き取り、確認、センター方式の用紙を活用して行い、状況把握に努めている。	○	同 上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの心身の状態観察を多面的なアプローチで行い、わかることわからないこと、できることできないこと、などをセンター方式の用紙を活用し、本人の意向を踏まえ、把握するように努めている。	○	同 上
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、ご家族の意見と、毎日の申し送り、カンファレンス、職員会議などを通し、状況に合わせたケアの作成に努めている。	○	同 上
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況の変化へは、申し送り、カンファレンスの結果、最善の方法を当面の対応とするが、方針の見定めや確認に時間が必要な場合がある。	○	同 上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康管理チェック表、重要申し送り事項一覧、環境整備チェック表、日報、などの記録を行っている。話した言葉、行った言動など細かに記録されていく中で、いつものこととそうでない事が情報として共有化され、対応が出来やすくなっている。	○	同 上
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所時の系列他事業所との情報交換。系列母体と合同の祭り等のイベント。ADL低下における対応相談窓口としての役割。系列デイサービスのレクレーションへの参加などを行っている。	○	引き続き、柔軟な対応を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域民生委員の訪問にて、独居の留守宅の安全確認や回覧物等のお届けを協力いただいている。ボランティアは定期的な訪問で、各専門分野の知識で協力いただいている。	○	今後も継続して、利用者様がよりよく暮らし続けるために、各機関との協働をお願いし、快適・安心・安全に繋がる支援の輪を確立していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	系列居宅ケアマネとは、在宅時から入所時までの繋がり、相談をしている。また、作業療法士などの支援を組み入れたが、主治医からのアドバイスもあり、ご家族と相談の上、経過観察となっている。	○	同 上
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を重ねていく中から、ヒントとなるアドバイスをいただいたりする。	○	同 上
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は個々におり、入所以前からのかかりつけ医の利用者様もいる。協力医療機関のかかりつけ医を紹介する場合は、本人、ご家族様の了解を得ている。必要に応じ、往診にて負担の少ない早期対応に努めている。	○	同 上



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>個々の主治医とは、受診時以外にも相談をすることが出来ている。認知症特有の精神の波については、内服薬について薬剤師にも相談し、より本人の落ち着いた暮らしへの支援に繋げている。</p>	○ 同 上
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>日常の健康管理について、系列母体の看護師に相談することがある。</p>	○ 同 上
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、こちらからも病院に出向き、様子確認と、退院に向け各関係者との打ち合わせにも同席している。退院後、速やかに以前の日常生活に戻れるように、日常生活上の注意点、食事栄養摂取留意点、必要介護用品の手配、確認等をしている。</p>	○ 同 上
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族には、必要時、緊急時並びに重度化時の対応の意思確認をしている。連絡優先順位、救急車要請の有無、死生観として何に重きを置くかなど確認し、情報を共有化している。</p>	○ 現在、安定して過ごされている方においても、いずれADLが低下されることを前提に、何事も起きる可能性があることを理解していただきながら、引き続き、体制と意識の整備に取り組んでいきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご家族には、特別な医療が必要となった場合は、出来る超えてしまう点をご了解いただいている。しかし、ご要望がある限りは、一般家庭で出来るのと同じくらいまでは、医療・ご家族・ホームで共に支援していけるような体制に向けて相談をしている。</p>	○ 同 上
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人にとって不安材料となる要因は、出来るだけ軽減されるよう、関係機関との情報交換や心身の状態把握に努めている。</p>	○ 同 上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳や、プライバシーに対する注意点は、組織全体の取決めにおいて十分配慮している。日常動作では必ずお礼とねぎらいの言葉をかけ、居室の出入りの際の声かけや書類の管理、記録の方法など取り扱いに留意している。	○ 利用者様への「尊厳」や「プライバシー」への配慮は、支援をしていく中で、最も留意しなければならないを大切なことであることを、職員全員がさらに深く理解し、今後も言動には細心の注意を払って支援していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせた説明を行っている。更衣時の衣類の選択や、次の行動に望んでいることを都度お聞きし、ご本人の意思を確認する言葉かけを心がけている。	○ 引き続き、ご本人の自己決定の場面を多く取り入れ、意思確認と納得が得られるような支援をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自由に、ご本人のペースに合わせた支援を心がけ、こうあらねばならないという考えに陥らないように留意している。	○ 人員や、業務内容などの兼ね合いで、やりきらなければならないこととのバランスが難しい日もあるが、常に利用者様を中心に置いた柔軟な動きを心がけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	カット、毛染めについては、なじみの理髪店や、ビューティーヘルパーを利用したり、職員の手で行ったりしている。男性利用者様のご家族が、定期的に散髪に来訪してくださる方もいる。女性の化粧品や衣類の購入は一緒に買物に出かけたり、ご家族と出かけたりしている。	○ 引き続き、その方の希望や状況に合った暮らしを続けられるよう、細やかなアセスメントと、気づきの視点をもって、健康で生き生きと生活できるような支援をしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意不得意や、できる力に合わせて、野菜切り、盛付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど、声かけしながら一緒に行っている。食事も個々の好き嫌いをできるだけ把握して対応している。	○ 同 上
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌を楽しまれる方が2名おり、ご本人の体調や気分を確認し、量も味も楽しんで飲めるよう、配慮している。ほろ酔いで自慢ののどを披露して歌を歌われることも多く、ほのぼのとした団欒の場になっている。	○ 同 上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に都度記入し、誘導の必要な方へは、適切な時間に排泄の誘導や排泄介助ができるように配慮している。その方のしぐさなどからわかるサインを見逃さないように努め、声かけも工夫している。	○	同 上
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれのその日の気分を確認し、入浴の声かけを介助を行っている。お茶葉の再利用で感染予防に活用したり、みかんの皮を干した自家製入浴剤や、季節のゆず湯、菖蒲湯など行っている。	○	同 上
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方のペースに合わせ、自室で過ごしたり、ソファで横になったりできるよう支援している。夜間は、良眠できるよう、日中の活動量や安心してできる飲み物、清潔な寝具、室温等の環境整備などへ配慮している。	○	同 上
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、買物、手芸、調理、洗濯、菜園、ドライブ、系列デイへの催し物に参加するなどを通して、生活歴に合わせた役割や楽しく、気晴らしになるような支援をしている。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実し、一人ひとりにとってより楽しみとなる出来事や、豊かで潤いのある生活になるような支援に向けて一緒に取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に小口の預かり金をご家族よりお預かりし、必要時に使っている。買物時には、財布からお金を出して支払っていただく行為を声かけするなど努めている。	○	同 上
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミだしを兼ねた、系列施設への散歩は毎日行っている。食材の買物も、車で毎日行い、できるだけ外出の機会を多く取れるよう努めている。買物がてら、近距離のドライブも行っている。	○	同 上
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた、梅、桜、藤などの花見、菊花展、初詣など、お弁当を用意することもある。小グループで、希望の方面の海や景観地へドライブしたり、ご家族から、気晴らしの外出にご協力いただいている。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実し、一人ひとりにとって、いきたい所、お墓参り、なじみの場所めぐりなどの取り組みを行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合や、必要性を感じる状態のサインがあった場合は、電話で通信することで安心を感じていただいている。手紙も自由であり、月1回程の絵手紙、絵習字をご家族に送っている。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実し、一人ひとりにとってより楽しみとなる出来事や、豊かで潤いのある生活になるような支援に向けて一緒に取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人等の訪問はとでも多く、誰彼となく来ていただいている。他の利用者様も馴染みの間柄になり、ホールで皆さんとくつろいだりする雰囲気、1つの大きな家族のようにも感じる。	○	同 上
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などでも拘束に関する知識の確認を行い、身体拘束や言葉の拘束のないケアを心がけている。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実し、一人ひとりにとって日常生活が安心で安全であり、より快適な生活が送れるように、観察や気配り、気働きを持つ的確なケアになるよう支援していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員で、鍵をかけない工夫に取り組んでおり、日中は誰でも自由に出入りできるようにしている。夜間のみ防犯上の観点から、居室窓を含め鍵をかけている。	○	同 上
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全面での所在確認のため、玄関にセンサーがあり、感知した音に対し、必ず目での確認を行っている。ホールには見守りの職員ができるだけいるよう連携している。	○	同 上
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、針などの危険や注意を伴うものについては、手の届かない場所に保管するなどの対応をしている。	○	同 上
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別に歩行器や杖の使用、見守りの強化。誤嚥防止のため、食事中的見守り強化。誤薬防止のためのチェックシステムの確立。インシデント、事故報告書などにより分析と再発防止への取り組みを行っている。	○	同 上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所時、全職員で消防署開催の応急手当普及員の講習を受講し資格取得している。緊急時対応の書籍を常設し、いつでも知識の確認が取れるよう心がけている。緊急時連絡先と手順も整備。	○ 同 上
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣、施設単独などの防災訓練の遂行。備蓄品の確保。運営推進会議を通して、近隣の方々との協力を深めている。	○ 引き続き、定期的な防災訓練や地域の方との協力を確立し、災害や緊急時に冷静で的確な対応のできるよう、体制や意識の充実に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時、または身体状況のレベルに応じて、起こりうるリスクへの説明とご理解をいただきながら、その中で優先したい対応や価値観についての確認を取っている。	○ 同 上
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、食事量、水分量、排泄、排便、服薬、睡眠、などの記録と、入浴時の状態確認、痛み、不調の訴え、サイン、に常に留意し、情報の共有をしている。特変時は、別紙申し送り表の活用と、勤務入りの際の申し送りをし、対応している。	○ 引き続き、一人ひとりの身体状況に合わせ、健康上の不安のない生活ができるだけ続くよう、細やかな観察とアセスメントを行い、的確なケアができるよう支援をしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬包の管理、内服支援は何重にもチェックする仕組みを確立している。誤薬防止のための工夫をし、目的、留意点は毎回確認できるようにし、様子観察も心がけている。	○ 同 上
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の周期、状態の確認にて、その方に応じた対応をしている。また食事や飲み物は、根菜や野菜類など繊維質の多い物、乳製品、を心がけており、便秘の予防と、適切な排便習慣につながる支援をしている。	○ 同 上
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、就寝時の口腔ケアは必ず確認し、夜間は義歯洗浄剤を使用し衛生的に行っている。昼食後については義歯安定剤の使用もあるため、行える方のみ。外出後のうがい、手洗いを励行中。	○ 同 上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、体重、運動量、嗜好、などにより、個別に必要量盛り付けし、摂取量の調整を図っている。年間を通じて、水分摂取をできるだけしていただくよう、お茶のおかわり、声かけ等留意し、把握に努めている。	○	同 上
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防委員会に月1回参加し、情報収集。取り決めの遂行。年間を通じ、毎食ごとのテーブル消毒、換気、環境整備を行う。インフルエンザ予防接種の全員摂取。感染性の対応時、処理方法の周知。	○	同 上
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材・調理物の扱いに対する取り決め、生もの留意、ディスポの手袋の使用、毎日のまな板漂白等。職員・利用者共手洗いの励行、紙タオル使用、傷、体調不調の自己申告など心がけている。	○	同 上
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口のスロープ傾斜は、開所時以降さらになだらかにした。プランター、花壇に花を植えている。玄関内は、すぐに座れるベンチもあり、温かで安心感のある色調に統一している。	○	引き続き、細やかなアセスメントを充実し、一人ひとりにとって、居心地がよく、安心してくつろげる生活空間を整備し、心身とも安全で快適な生活ができるような環境への支援に取り組んでいきたい。また、職員の出す声、言葉、態度が重要な環境要因になりうることを、職員全員が深く認識して、支援する側に臨んでいきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は、季節の花や歳時の飾り付けをし、季節感を取り入れる努力をしている。ゆったりとしたソファは、誰が来てもリラックスでき、暖かみのある照明器具をスポットで使用し、穏かな空間作りを心がけている。アイランドキッチンからは、調理をする様々な音が聞こえ、安心感、生活感がある。	○	同 上
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいときは、庭のベンチやパラソルの下で外気浴。居間の大型ソファ3つでは、それぞれのお気に入りの場所があり、寝転んだり、入れ替わったり、食堂の椅子に座ったり、好き好きに過ごせるよう支援している。	○	同 上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、なじみの家具等を入れていただけるようご家族に説明し、それぞれの居室作りをしている。大切な方の写真やアルバム、お孫さんの手紙、ペットの写真、趣味の俳句の短冊、など工夫している。	○	同 上
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気をし、環境整備チェック表に記録をしている。空調は職員ではなく、利用者様の体感温度を確認し、調整している。	○	同 上
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーである。手すりが、廊下、浴室、トイレなど必要に応じ取り付けられている。各居室に自分専用のトイレがあるため、その往復だけでも生活リハビリとして活用できている。	○	同 上
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に、自分専用のトイレがあるため、一人ひとりに応じ、失敗せず、混乱のないように環境を工夫している。混乱のサインを見逃さず、職員がすぐフォローするよう心がけている。	○	同 上
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間や居室からは、菜園や花を植えている庭に自由に出られ。一緒に菜園の野菜を収穫し食事に使っている。人工芝では、パラソルとベンチにて、自由に外気浴をされる。フェンスは布団干しに活用し、生活感をかもしだしている。	○	同 上

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりと、穏やかな雰囲気の中で、生活暦に合わせた家事や趣味を一緒に行い、笑顔や可能性を引き出しながら、安心して暮らせる生活を支援することを心がけています。